

プーチンの幻想

稲宮 健一

今回のプーチンのウクライナ侵攻の背景はソ連邦の崩壊の負の遺産を回復したいと云う願望だと言われている。ベルリンの壁の崩壊は一九八九年、これを切っ掛けにワルシャワ条約機構は解消した。ロシアはかつてのソ連邦ではない。

ロシア革命以前に数学教師であったツオルコフスキーは宇宙飛行が可能なことを世界で初めて数式で示した。この時代はドイツを中心に宇宙の夢が語られた自由な時代であった。第二次世界大戦を経た後、冷戦時代に入り世界初の人工衛星「スプートニク」の開発を主導したコロレフは戦前の宇宙分野の活動を理由に一時ドイツのスパイと嫌疑を掛けられ収容されていた。しかし、ロケットエンジン開発の実績が認められて復帰し、その後、世界初の人工衛星を完成させ軌道投入を達成させた。

冷戦時代では宇宙開発は言うに及ばず西側との軍事的優位を争い、多くの国家予算が軍事に注ぎ込まれた。一方、国家の方針にそぐわない活動や言論は厳しく抑圧された。ソ連邦の国家理念は富が国民に等しく行き渡る社会の実現であった。しかし、実際は官僚のトップダウンの指示から外れた活動や、物資は国民が喉から手を出して欲しいと思っても入手は許されなかった。その結果として、ベルリンの壁の崩壊を招き、ソ連邦は瓦解した。これはソ連邦の実質的な敗戦である。当然、この事実を反面教師にすべきであるが、しかし、プーチンの経歴は明るい未来の国家像を描くより、国家間の関係を裏から眺めて、その中で相手を打ち負かす姿を頭に描いているようだ。結果、かつての衛星国群は去っていった。

私も敗戦を体験した。空襲による廃虚や、食料不足などのみじめなことが沢山あったが、世の中が落ち着いて来た戦後二十年経った頃から世界に追いつけ、追い越せの時代に入り経済大国と言われるところまで達成した。これも敗戦をバネに、欧米との力の差を意識し正面から挑戦した結果だろう。まあ、近年は足踏が長いが。